

理研会報

発行日：令和元年12月3日
号数：No. 402
発行：印旛地区教育研究会理科研究部
HP：<http://rikainba.com>
メール：rikainba@yahoo.co.jp

★★

令和元年11月2日に千葉市の各会場で第69次千葉県教育研究集会が行われました。印旛からは夏の印教研で、中学校、小学校ともに3部会が推薦され、蛭原先生（西の原中学校）、上田先生（七次台中学校）、田中先生（池の上小学校）、吉田先生（西の原小学校）の4名が研究発表を行いました。印旛の代表として堂々と発表して下さったそうです。ありがとうございました。感想をいただいたので掲載します。

印西市立西の原中学校 蛭原 倫子先生

三部会の研究主題は「目的意識をもたせるための指導の工夫～導入を意識した授業を通して～」とし、三部会15校の教員や生徒にアンケート協力をしてもらい、単元を通しての導入授業づくりや板書掲示物作成などを行いました。この導入を、「理科の見方・考え方」の中でもその単元全体に関わる「科学的な視点」を「単元の柱」と呼び、1～3年生の地学分野において意識して授業を行いました。その結果、本研究実施前と実施後のアンケート結果の比較をしたところ、生徒は授業規律や受験、褒美のためではなく、「課題を解決しようとしたりする目的意識」をもつ生徒は12.5%上昇しました。

県教研の発表から、次のような2つの助言をいただきました。1つ目は、黒板に掲示する「単元の柱」は、毎時間意識することができ、また、ユニバーサルデザインとして良い活用法とのことでした。2つ目に、生徒が目的意識をもっていないと思っている教員が多いのは残念なことです。教員側が見通しをもって“大きな柱”に沿って指導することは大切です。先生方がもう一度見直した授業ができるように支部に広めてくださいとのことでした。

他支部の発表で特に印象が残ったのは、「心臓モデル」の作成です。BTB溶液を使い酸素と二酸化炭素の入れ替えがわかるようなモデルを作製していました。そして、「生の教材」を使うときと「モデル」を使った授業では目的が違うので、多様に挑戦して取り組んで欲しいとのことでした。

県教研に参加し、今後の授業研究に生かしていきたい内容ばかりでした。このような貴重な機会を体験させていただきありがとうございました。

11月2日に行われた県教研に参加させていただきました。理科分科会では、「子どもの興味、関心、意欲を高める」「学び合い、一人ひとりのよさを活かす」「科学的な見方や考え方、思考力・表現力を養う」「身近な自然を活かした」理科学習のあり方について提案・討議が行われました。印旛支部は、研究主題を「理科学習における問題解決の力～知識・技能の習得と活用を意識した学習を通して～」とし、5年「もののとけ方」での実践を発表しました。他支部からはユニットの良さについて評価をいただきました。共同研究者からは児童の感想から達成度をはかっている点について評価をいただくとともに、今後は評価基準を明確にすること、子どもたちの考えがどのように、どのくらい深まったのかわかるようなデータがあるとよい、などのご指導をいただきました。全体では、事象のおもしろさだけでなく因果関係にも目を向けること、子どもの変容を捉えることなどのご指導をいただきました。また、他支部の提案も各々の地域性を生かしたり、教具開発に努めたりと、どれも工夫がなされていて大変興味深く、これからの授業実践や研究に生かせるものばかりでした。今回学んできたことは、今後印教研理科研究部に還元していきたいと思えます。貴重な機会をいただき感謝申し上げます。

第三回役員会及び第二回研究員集会

来年2月7日(金)に成田小学校を会場に第三回役員会と第二回研究員集会が予定されています。

第三回役員会 14:15～15:00

第二回研究員集会 15:10～16:30

※小・中それぞれ資料を40部ご用意下さい。

参加者には事務局より出張依頼文書が送付されますので、研究員集会の発表者(小中)を後日ご報告願います。

千理研柏大会

11月15日(金)に柏市立田中中学校、田中小学校を会場に千葉県教育研究会理科教育部会研究発表大会(千理研)が行われました。印旛からは以下の先生方が代表として分科会で活躍されました。

発表者	佐倉市立西志津小学校	白鳥正人先生(物理)
	八街市立八街中学校	石綿 賢先生(化学)
指導者	四街道市立みそら小学校	山下博樹先生(化学)
司会者	成田市立玉造中学校	伊東由美先生(地学)